

第2日目 2021年9月5日(日)

午後の部 13:00 ~ 16:00

シンポジウム

「パブリック／プライベート」空間の重なりと家族・ワークライフバランス

— 「職住分離の不明瞭化」の影響を考えるために

趣旨説明：安藤 究（名古屋市立大学）

討論者：高橋美恵子（大阪大学）

：筒井淳也（立命館大学）

【企画趣旨】

10期2年目の大会シンポジウムは、新型コロナ禍のもとで加速された「パブリック／プライベート」の空間的重なりが、家族・ワークライフバランスなどに及ぼす影響を考える契機となるよう企画された。周知の通り、近代社会における「職住分離」という構造は、家族社会学の様々な主題の検討において重要な与件の一つであった。ところが情報通信技術（ITC）の進展で従来の「職場」空間に限定されない働き方が可能となり、また新型コロナ禍のもとでその一つの形態である在宅勤務が急激に増加した。こうした「パブリック／プライベート」の空間的重なりの進行は、家族内の役割分業やワークライフバランスをはじめとして、様々な影響を社会にもたらす可能性が考えられる。例えば物理的に「パブリック／プライベート」の空間が分かれていないことは、その分離のもとで容易となっていた「公私の区別・切り替え」を難しくするであろうし、仕事をしていても物理的に「家」空間でもっぱら過ごすことは、「外」で働いている場合と比較して、育児サポートにかかわるパーソナル・ネットワークの形成に相違が生じるかもしれない。

「職住分離の不明瞭化」の影響の全体像を把握するのは容易なことではないだろうが、議論の手がかりは幾つかあると思われる。本シンポジウムでは、まず、コロナ禍以前から在宅勤務（テレワーク）という労働について研究されてきた高見具広氏に、コロナ禍のもとでのパネルデータをもとに、ワークライフバランスという観点から在宅勤務について分析して頂く。それとともに高見氏からは、テレワークという労働が孕む問題、具体的には労働の自律性とその強化（「新たな働き過ぎ」）の問題も指摘される。次に、「パブリック／プライベート」の空間分離は、高度経済成長を縁の下で支えた自営業（特に自営業の妻）でも自明ではなかったことに留意して、自営業の妻の労働について研究されてきた宮下さおり氏に登壇して頂く。自営業の妻の労働と家族生活について、自営業の夫婦関係では家族関係と仕事関係が重なりあう場合が少なくないことの影響や、その労働に関する制度的側面の特徴を踏まえて議論される。第三に、仕事／家族空間の重なりの影響を考える上で、生活時間の分析は重要な手がかりとなることには大きな異論はないと思われる。この生活時間の分析で注意したいのは、それはある個人が仕事／家族空間で過ごす時間配分のみを示すわけではないということである。日常生活で「何か」のために使用される時間は、それが行われる空間をとまっており、その「何か」のために「時間と空間」を他者と共有する／共有しないということも、生活時間構造の分析は示すということである。リモートワークの拡がりに伴う生活時間構造の変化の分析が可能となるにはまだ時間が必要と思われるが、従来の職住分離という構造のもとでの「時間と空間」の共有性と家族について検討を加えておくことは、現在生じつつある仕事／家族空間の重なりが家族に及ぼす影響について考える基盤となるだろう。この点について、3番目の登壇者として品田知美氏に論じて頂く。最後に、ワークライフバランスの議論に造詣の深い高橋美恵子氏と筒井淳也氏に、これら3人のシンポジストの議論を受けて討論して頂く。

本シンポジウムは、「職住分離」の不明瞭化が家族領域に及ぼす影響の全体像について一定の「答え」を出すというよりは、先にも述べたように、家族社会学にとって、この問題を今後どのように検討していくかを考える出発点と位置づけて開催したい。

キーワード：パブリック／プライベート、職住分離、職住分離の曖昧化